

## 本校の校内研究 これまでの成果と目指す二延の児童像

研究主任 深町 耕一郎

本校では、平成26年度より「教えて考えさせる授業」（以下OKJ）を実践する校内研究を続けてきました。OKJは、児童が考える根拠となる必要な知識を授業冒頭でしっかり教え、それをもとにして学習活動を展開させる授業スタイルです。授業の中で理解した知識を活用するために、「理解確認」（本校では「確かめよう」）「理解深化」（本校では「深めよう」）の2つの段階で活用しています。児童が2人組になり理解したことを説明したり、3～4人組の小グループで難易度の高い問題の解決に取り組んだり、協働学習と名付けた言語活動、つまり「アクティブ・ラーニング」に取り組むことを特徴としています。

今年度は、昨年までの研究の成果と課題を受けて「すすんで考え、学び合う、自立した学習者の育成 ～『教えて考えさせる授業』における単元づくりと学習評価を通して～」という主題を掲げ、授業の終末などで行う児童自身の自己評価や振り返りの仕方を工夫し、児童自身が学習を振り返る意識や習慣を育てていけば、学習意欲や学習理解を高めていくことにつながるだろうという仮説を立てて研究を行っています。

研究を積み重ねることで分かってきたことは、やはり学習のねらいや目標に向けた自己評価や振り返りの仕方を教師が工夫すれば、児童も変容してくるということです。それまで、振り返りの中で「今日の授業は、理解できた」「難しかった」などとしか振り返れなかった児童の中には、「説明文の双括型は、読者にとって分かりやすい形だから、自分の作文でも使えそう」「筆者は説得力をもたせるために、わざとこういう表現をしていると思う」など、学習を他の場面でも生かそうとしたり、自分なりに価値づけしたりといった振り返りをするようになってきました。こうした変容がより生まれるような授業を展開し、より質の高い理解の定着を目指しています。

まだしばらくの間、授業を見て下さい、とお知らせするのが難しそうですが、状況を見て、そのような機会もつくりたいと思います。その際にはぜひ、子供たちが熱心に学習に取り組む姿を、ご参観いただければと思います。



## なかよし班・1年生を迎える会

教育課題 新井 亮寛

いよいよ7月からなかよし班活動が始まります。本校では、学年の縦の繋がりを大切にし、掃除の時間を1年生から6年生の縦割り班で活動を行っています。また、朝学習の時間になかよし班で遊んだり、全校校外学習で一緒に活動したりもしています。通常登校になり、上級生が下級生に優しく教えてあげる光景がようやく戻ってくるのが、学校としてもとても楽しみです。

7月16日（木）に、「1年生を迎える会」を行います。新型コロナウイルスの影響で例年通りの実施はできませんが、なかよし班で1年生の仲間入りをお祝いする計画を立てています。6年生は会の司会進行、5年生は「はじめ・終わりのことば」、4年生は1年生のお迎え、3年生は招待状作り、2年生は1年生へのプレゼント作りと、それぞれの学年がしっかりと役割を果たし、1年生に喜んでもらえるよう準備を進めています。会をきっかけに1年生がより学校生活になじめることを、心より願っています。